



な凹凸の繰り返しで、我々期待のマッタリハイクにはうってつけ。杉ヶ峰と屏風岳のあいだにひろがる芝草平はこのコースのオアシスだ。



刈田峠登山口の案内板



杉ヶ峰に登る途中から刈田岳を振り返る



杉ヶ峰を越えると眼下に芝草平の湿原が



芝草平でくつろぐ乙女3人



芝草平から屏風岳（どこが屏風？）



花と大木さん

しかし南屏風岳を越えると、その先は短い距離だが火山らしいもろい登下降やクサリ・ロープなどがでてきて面白くなってきた。しかもハクサンイチゲの大群落がここかしこにあって、花好きにはたまらないところのようだ。帰りが大変なので、屏風岳もしくは南屏風岳で引きかえそうかという話もチラッと出たのだが、不忘山まで来てよかったと思う。帰りも行きと同じくらいの時間をかけて刈田峠登山口に戻る。今日の宿の蔵王温泉の「ロッジちとせや」までは40分くらいであった。



屏風岳の山頂（何も見えず）



あと少しで目標の不忘山



不忘山の山頂（何も見えず）



ハクサンイチゲの大群落



ミヤマダイコンソウ



番外編（蔵王温泉のジンギスカン）

6/18(日) 宿→竜山スキー場(ワラビ採り)→(時計周りで) 瀧山→竜山スキー場(ワラビ採り)→宿

今日は宿のおやじさんお奨めの瀧山に向かう。コースは竜山スキー場をかすめるのだが、そこで出会った地元の人から、「ここはワラビ山だからいっぱい採れるよ」と言われた。たしかに周囲にはちょっと育ちすぎてはいるがワラビがそこかしこに見られる。そこで早速瀧山ハイキングは山菜ハイクに衣替えとなり、各自ワラビ採りに精を出す。もう大きくなったワラビが多いが、注意して見れば食べられるレベルのワラビも生えている。ただここで山菜を見る目の差が出て、柘植はほかの女性陣

とくらべると 1/4 以下の収穫で最後は少し恵んでもらうことになってしまった。瀧山自体はスキー場のすぐ上にそびえており、時計まわりに 1 時間ちょっとで着いてしまった。ここも天気がよければ眼下には蔵王スキー場、また反対側には山形市街がよく見えるらしいが、今日も昨日に続いて上のほうは雲に包まれてしまい、あまり展望は得られなかった。ただここも何組かのパーティーや大人数の団体さんと遭遇し、蔵王温泉に泊まったハイカーが軽く楽しむにはよいところらしい。帰りも周回ルートからまた竜山スキー場に下りてきて、再びワラビの補充にいそしむ。下山後は温泉と昼食をすませて帰路についたが、ワラビ採りに時間をかけすぎたために千葉には 22 時前になってしまった。



温泉街を抜けて竜山スキー場へ



ジャンプ台を見上げながら瀧山を目指す



ヤマツツジは今が見頃



瀧山の山頂

竹下さんとは久しぶりの山行だったが、前と変わらない竹下さんで安心した。

報告担当：柘植